

グループ討議の結果

グループ1

<焼却>

焼却のあり方に関し、埋立との関係を重視すべきか、二酸化炭素の排出との関係を重視すべきかについて、意見が分かれた。

- ・埋立量は少なければ少ないほど良い。
- ・埋立量が増えるよりも、二酸化炭素削減の方が重要
プラスチックを燃やさなくても人類滅亡にならない。二酸化炭素削減が重要。
- ・二酸化炭素削減も重要だが、灰溶融やガス化溶融を使用しないとごみ削減は困難ではないか。
一人5票で、埋立量・二酸化炭素・コスト、どれを重視するか投票。

結果 埋立量：11 二酸化炭素：22 コスト：2

一人1票で、灰溶融を外すか、継続するか、投票。

結果 灰溶融を外す：1 外さない：6

<有料化>

- ・ごみ減量の意識を高めるためにはごみ有料化は必要（有料化に賛成）。
- ・有料化は賛成。ただし、不法投棄の増加が心配。

<容器包装以外のプラスチック>

様々な意見が出された。

- ・徹底的にリサイクルすべき（賛成）。
- ・製品系の廃プラスチック類のリサイクルに、行政関与でやるべきではないか？
- ・使った製品を戻す、または返却する仕組み作り（デポジット制度）は可能か？

グループ2

< 焼却 >

焼却する前の取組み、焼却段階での取組み、双方の意見が出された。

- ・発生抑制のため、環境教育を推進すべき。
- ・より効率的なエネルギー利用・資源化の技術の導入が必要だ。
- ・埋立量削減のためには、(コストや二酸化炭素の問題はあるが) 熔融を望む。
- ・(コストや環境負荷を考慮しながら) 埋立量を減少させる事が最優先。

< 生ごみ >

シナリオ修正に影響する意思が出された。

- ・行政主体で進めるべき。市民・事業者主体では取組が進まない。

その他の意見

- ・「広報なごや」や「市長談話」など既存の仕組みを利用し、お金をかけずに普及・啓発を進めるべき。
- ・発生源から対策を進めるべき(例：売る段階から人参の皮などを取り除き、必要部分のみを真空パックや包装して販売)。 反対。過剰包装が増え効率的ではない。

< 有料化 >

ごみ有料化には反対、資源のリサイクル費用の上乗せ販売には反対意見が出された。

- ・ごみ有料化には反対。袋を買わず不法投棄をする人など、今よりいい加減な人が増えるのではないか。不法投棄対策すべき(ルールの強化、守らない人の取締りを強化)。
- ・資源は、無料とすべき。

< 容器包装以外のプラスチック >

シナリオ修正に関し明確な反対の意見は出されなかった。

- ・リサイクルできるものはリサイクルし、できないものは焼却処分が良いのではないか。
- ・容器包装以外の廃プラスチック類の焼却+エネルギー回収に多くの人が指示。

< 取組主体 >

排出抑制や生ごみリサイクルなどの取組み方針に大きく影響するような意見が出された。

- ・A+D(市民・事業者主体)はB+C(行政主体)の合計より意見数が少ない
全体として 行政が政策を進める事 を望む声が多いのではないか。
- ・「不法投棄」のような個別の問題は修正していくべき。
- ・一人住まいやお年寄り世帯を懸念。 市民・事業者主体では取組が進まない。

< その他 >

- ・ポイ捨て対策にごみ箱を設置して欲しい。

グループ3

< 焼却 >

焼却のあり方について、様々な意見が出された。

- ・埋立量と、二酸化炭素が減る点で、焼却 + 灰溶融を望む。スラグが有効活用されるのであれば、コストが高くても良い。
- ・焼却前に発生抑制することが必要。灰溶融施設のために市の税金を莫大に使う必要があるのか疑問。
- ・焼却の方法や予算の使い方は市議員が議論すべき課題。

< 生ごみ >

シナリオ修正に影響する意思が出された。

- ・一人暮らしの人と家族がいる人が同じ条件で自家処理をすることはできない。
- ・全市で統一的にリサイクルを実施する場合、堆肥化よりメタン発酵が効率が良いのではないかと。堆肥は受け入れ先の問題があるのではないかと。また、リサイクルステーションを排出場所とする場合、ステーション周辺の人々が迷惑するのではないかと。
- ・堆肥は、生ごみを出した人が優先的に利用できるとよい。
- ・行政が頻繁に収集するのか、地域住民が全部管理するのか。

< 有料化 >

シナリオ修正に影響する意思が出された。

- ・資源は、無料とすべき。

< 取組主体 >

排出抑制や生ごみリサイクルなどの取組み方針に大きく影響するような意見が出された。

- ・15年先には市民、事業者、NPOの主体的な参画が必要（賛成）。
- ・行政主体でそれに市民が協力する方が取り組みやすい。行政は永続的に将来も責任を持つてやるので、行政中心がよい（反対）。

< リターナブルびん >

シナリオ修正に影響する意思が出された。

- ・全ての容器に統一することは難しいと考える。

< その他 >

- ・教育・人材育成に、分別・リサイクルの徹底の要素も入れたほうがよい。
- ・袋の色分けやユニバーサルデザインで誰もが分別できる仕組みが必要。

グループ4

< 焼却 >

焼却のあり方について、様々な意見が出された。

- ・ 埋立量・二酸化炭素削減のためには、コストをかけてもよい。したがって、焼却+灰溶融またはガス化溶融炉の方法がいい。
- ・ 処分場にごみを持ち込む時に税金がかかることも考慮するなど、コスト削減が重要。意識の向上にもつながる。
- ・ 埋立量が減っても埋立地の確保は永遠の課題であると考えられるため、今後も埋立地を確保し、コストがかからない選択肢を選択すべきだ。したがって、焼却のみを進めるべき。埋立地の確保の問題もあるが、その間に技術革新が起こることを期待。

< 生ごみ >

リサイクルの方法について様々な意見が出された。

- ・ 住居形態や家族人数などによって、堆肥化などの取組みが出来ない世帯もあるので、行政関与も必要ではないか。
- ・ 事業系生ごみのリサイクルシステムに、家庭の生ごみを取り込むことができれば民間主導でも循環することが出来るのではないか。

< 有料化 >

ごみ有料化には、基本的に賛成の意見が大勢。

- ・ 後払いによる有料化は不法投棄の増加を促す可能性がある。
- ・ ごみ量に応じて負担するので、収入の差があっても不公平にはならない。
- ・ 市民が意識しない程度に価格を少しずつ上げればよい。

< 容器包装以外のプラスチック >

シナリオ修正に影響する意思が出された。

- ・ 全てのプラスチックを分別の対象にするべき。容器を含めて化学原料リサイクルにするべき。

< 取組主体 >

排出抑制や生ごみリサイクルなどの取組み方針に大きく影響するような意見が出された。

- ・ 民間主導では地域格差が出るためよくない。行政がリーダーシップを取り、しみが協力する方がよい。